

平成 27 年 6 月 16 日

碧海信用金庫

各位

2015 年 3 月期（平成 26 年度）決算発表

碧海信用金庫（理事長：福田 雅美）は、2015 年 3 月期（平成 26 年度）の決算について、以下のとおり業績の要約を公表いたします。

記

1. 主要業績数値

		2015 年 3 月期 (当期)	2014 年 3 月期 (前期)	増 減
預貸金状況	預金積金残高	1,858,386 百万円	1,732,127 百万円	+126,259 百万円 (+7.28%)
	貸出金残高	970,407 百万円	924,285 百万円	+46,122 百万円 (+4.99%)
損益状況	業務純益	5,206 百万円	5,457 百万円	△250 百万円
	経常利益	6,821 百万円	6,232 百万円	+588 百万円
	当期純利益	4,808 百万円	4,393 百万円	+415 百万円
健全性	純資産額	171,271 百万円	161,953 百万円	+9,317 百万円 (+5.75%)
	自己資本比率(単体)	18.70%	19.49%	△0.79 ポイント
	不良債権比率	3.54%	4.14%	△0.60 ポイント

※ 単位未満切捨て表示。

※ 不良債権比率は金融再生法ベース。

2. 業績コメント

[預貸金状況]

○預金積金残高は、定期預金を中心に順調に増加し、前期比 126,259 百万円増加の 1,858,386 百万円となりました。貸出金残高は事業者向け貸出、住宅ローンなどがともに増加し、前期比 46,122 百万円増加の 970,407 百万円となりました。

〔損益状況〕

○貸出金利息の減少や預金利息の増加があったものの、経費の削減や不良債権処理費用の減少、有価証券売却益の計上などから、業務純益 5,206 百万円、経常利益 6,821 百万円、当期純利益 4,808 百万円となりました。

〔健全性〕

○金融機関の安全性を表す代表的な指標である自己資本比率（単体）は、利益計上による自己資本の増加はありましたが、順調な預金等の増加に伴う総資産の増加、特に貸出金の増加等の要因により前期比 0.79 ポイント低下の 18.70%となりました。信用金庫に求められる国内基準（4%）を大きく上回っており、当金庫の安全性は極めて高い状態にあります。

○不良債権比率（金融再生法ベース）は、地域経済への影響を十分に考慮しつつ減少に努めた結果、前期比 0.60 ポイント低下の 3.54%となりました。

以 上